

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究年度終了報告書

抗A β 抗体薬投与実施体制の検討

研究分担者

岩田 淳 東京都健康長寿医療センター・副院長

研究要旨

抗A β 抗体薬の社会実装においては、薬剤そのものだけでなく、診断から導入後までを支える医療体制の整備が重要であった。東京都健康長寿医療センターの実臨床では、専門外来受診者のうち治療開始に至ったのは42.0%であり、主な非導入理由は病期進行、アミロイド陰性、MRI上の禁忌であった。75歳以上、男性、高MMSE例では開始率が低く、導入判断には副作用懸念や病状評価が影響していた。レカネマブ投与後のARIAは20%に認めたが、全例無症候性で管理可能であった。一方、日本では経済的障壁は比較的小さいものの、情報格差、家族内葛藤、地域連携の不明瞭さといった非財務的課題が大きく、今後は不適格例も含めた継続的ケア経路の構築が必要である。

A. 研究目的

抗A β 抗体薬の社会実装において、医療インフラ、医療スタッフのスキルアップ、社会への啓発に何が重要かを検討する。

B. 研究方法

東京都健康長寿医療センターで抗A β 抗体薬投与を進め、受診から導入、そして治療の経過についてデータを取得する。投与対象とならない場合もその状況を詳細に検討する。

C. 研究結果

治療開始率の現状：専門外来を受診した312名の患者のうち、実際に治療を開始したのは42.0%に留まる。主な除外理由は、認知症の進行（高度な病期）、アミロイド陰性、およびMRI上の禁忌（微小出血等）である。

開始の予測因子：75歳以上の高齢者、男性、およびMMSEスコアが高い（27-30）患者は、治療を開始する可能性が有意に低い。これは、副作用への懸念や、非常に軽症な段階での「様子見」の選択、アミロイド陰性率の高さなどが影響している。

安全性（ARIA）：リアルワールドの臨床現場において、レカネマブ投与によるアミロイド関連画像異常（ARIA）の発現率は20%（ARIA-E 4%、ARIA-H 16%）であった。特筆すべき点として、全例が無症候性であり、管理可能な安全性が示されている。

制度的課題：日本の国民皆保険制度は経済的障壁を最小化しているが、情報の非対称性、家族内の葛藤、専門医療機関と地域のかかりつけ医の間の役割分担の曖昧さなど、非財務的な障壁が顕在化している。

今後の方向性：DMTを単なる薬物療法としてではなく、診断前から診断後までの継続的なケア経路の中に組み込む必要がある。特に、不適格となった患者へのフォローアップ体制の構築が急務である。

D. 健康危険情報

なし

E. 研究発表

1. 論文発表

1. Ryoko Ihara, Masanori Kurihara, Keiko Hatano, Taro Bannai, Ryosuke Shimasaki, Akira Hatakeyama, Kou Furuta, Fumio Suzuki, Aya M. Tokumaru, Kenji Ishii, and Atsushi Iwata: Patients' choices and eligibility for anti-amyloid therapy in Japan's universal insurance. *Alzheimer's & Dementia: Diagnosis, Assessment & Disease Monitoring*, 18(1), e70315, 2026
2. Kae Ito, Shuji Tsuda, Taisei Wake, Akira Hatakeyama, Fumiko Ogisawa, Mayuko Ono, Riko Nakayama, Tomoko Wakui, Nobuko Nagano, Atsushi Iwata: Reframing dementia care in the era of disease-modifying therapies: informational, psychosocial, and

systemic insights from Japan. BMC Health Services Research, published online, , 2026

3. Ryosuke Shimasaki, Masanori Kurihara, Taro Bannai, Keiko Hatano, Fumio Suzuki, Aya Midori Tokumaru, Kenji Ishii, Ryoko Ihara, Atsushi Iwata: Amyloid-Related Imaging Abnormalities in Japanese Patients with Alzheimer's Disease Treated with Lecanemab: A Real-World Study. The Journal of Prevention of Alzheimer's Disease, published online, , 2026

2. 学会発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

1. Atsushi Iwata: Exploring the therapeutic potential in disease-modifying treatment in Alzheimer's disease: experience and latest insight. The Hong Kong Geriatrics Society annual scientific meeting 2025, Hong Kong, China, 招待講演, 2025年6月21日

2. Atsushi Iwata: The power of early detection & intervention: Learnings from real-world clinical experience in Japan. AAIC2025, Toronto, Canada, 招待講演, 2025年7月29日

3. Atsushi Iwata: Real-world evidence from Japan on Lecanemab efficacy & safety. The China Advanced Workshop and Course in AD Clinical Trials, Shanghai, China, 招待講演, 2025年9月6日

F. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし